平成３０年度　総合戦略推進会議委員からの主な意見等

＜各委員からの主な意見等＞

［委　員］: 資料１の１５番に、いぶり大根の生産とあるが、先日、いぶりがっこの産地化協議会ができたという取り組みについて伺った。その取り組みの中で、原料として大根がたくさん必要になると思うので、検証のところの今後の対応方針に、もう少し積極的な対応を記載してもらえればと思う。

また、大曲の花火の際のイベント民泊について、今現在、やりたいと手を挙げている方はどれくらいいるのか、もしわかれば教えて欲しい。

［事務局］: いぶりがっこの産地化協議会については、７月の中旬に立ち上げて、今動いているところ。地元の生産者の方々も参画していただきながら、３年を目処に、数値目標を掲げながら動いているので、こちらの検証のところに示せるようにしていきたい。また、先ほど資料２の方で地方創生推進交付金の話があったが、いぶりがっこの取り組みについても同交付金を活用していきたいと考えている。今現在は申請中の段階だが、もし採択されれば、来年度、あらためて報告させていただきたいと思っているのでよろしくお願いしたい。

民泊については、大曲の花火が開催される８月２５ ～ ２６日にかけて、一泊二日の日程で行うこととしている。市が主体となって、自宅を提供いただける方と、泊まりたい方の募集をそれぞれ行い、マッチングを行う。今現在は、自宅を提供いただける家主の方が決まった段階で、１０軒のご家庭にお願いしているところ。地域別では、大曲地域が６件、その他の地域が４件となっている。宿泊者は、住宅１軒につき１団体のみの受け入れとしているので、宿泊者の受け入れ件数も１０団体としており、これから募集を行う。

［委　員］: 資料１の２０番で、ファーマーズマーケット等複合型施設、いわゆるしゅしゅえっとまるしぇの売り上げと集客数が計画を下回ったということだが、私はこの施設は道の駅と同等の機能があるものと思っているが、ＪＡの直売所としては県内最大級の売り場面積を誇るということで、市でも助成し大々的にＰＲ等を行っているが、販売額が目標を下回っている。私も何回か利用しているが、休みの日がある。道の駅に休みがあるのかと思った。これでは競争に勝てないのではないかと正直思った。他の道の駅は年中無休だ。ＪＡで運営しているということもあると思うが、やはり運営・販売方法を変えていかないと、目標には届かないのではないか。

また、資料２の３ページ、３ － ２花火生産拠点整備事業について、目標の出荷数が、２９年度は６９００発なのに対し、平成３０年になると３３万発と、かなりの開きがあるが、本当に達成できるのか。こちらも市で予算をつけて頑張って支援しているので、目標達成に向けて頑張ってもらいたい。また、この下の方に既存花火会社を含む大仙市内の煙火出荷額、平成２９年度が９億２，９４０万円、３１年度が９億３，７００万円とほぼ同額だが、この金額には花火玉出荷数の３３万発の分は入っているのか。

［事務局］：休みの日があることを存じ上げなかったが、今後の課題としてＪＡ秋田おばこに伝えた上で、対応について相談させていただきたい。

花火創造企業の出荷数については、目標数値が高めの設定にはなっているが、花火会社の社長と相談した上で設定したもの。出荷額については、もちろん花火玉の出荷数も含めた数値になっていると思うが、こちらは目標を少し低めに設定してしまっている。見込み不足の点もあったが、ご理解いただきたいと思う。

花火の製造業は、玉皮貼りと呼ばれる工程の中で募集してもなかなか職人が集まらない状況にあるが、最も数が多い４号玉の製造は機械化を図り、効率的に製造できる状況になってきているので、そういった点から、３１年度は出荷額の数値はだいぶ上がって来るのではないかと思っている。

［委　員］：資料１の５０番、市の奨学金について、今後の対応方針を見ると実現がかなり難しそうだが、内容を少し教えてもらいたい。また、５２番の中心市街地の１日あたりの歩行者数について、大曲ヒカリオができる前の数値がわかれば教えてもらいたい。

［事務局］：奨学金については、県の制度で平成２９年度から奨学金返還制度を創設しており、３年間、奨学金の返還額の３分の２を助成するというもの。こちらに市の方で残りの３分の１を助成するということを検討したところだったが、財源の関係から実現できておらず、他の手段等の検討もできていない状況。

歩行者通行量については、少し古い数字だが、平成２１年度は２，９２４人となっている。平成２７年度までに少しずつ下がってきているが、この２７年度を基準値とし、それ以降はやや増加してきてはいるものの、２１年度当時と比較すると、やや横ばいになっている。ヒカリオのイベントなどを開催し少しずつ増加してきているものと考えている。

［委　員］：移住体験実施回数ということで、成果のところを見ると、大変好評であると記載があるので、２回に限らず、もう少し回数を増やした方が効果が上がるのではないかと思うが、見解を伺いたい。また、８８雪の利活用について、所管課はどちらかということと、主にどういったことを考えてこのような目標としているのか伺いたい。

［事務局］：移住体験お試しについては、私どもの方でも、今年度から回数を増やし、内容の充実を図ることとしている。

雪の利活用については、総合防災課が担当となっているが、全国的には、雪を夏まで保存して冷房として使用するなどの取り組みが行われているので、当市でもそういった研究ができないか考えたが、実現には至っていない。雪を害のあるものとして見るのではなく、うまく利用していくことが必要だと考えているので、今後も企画部門としても模索していきたい。